

ちいさな証

イエスさまは私の光です

クライナー 佐々木千恵子

ドイツ バード・サウルガウ



トガルトにやって来ました。

私は南ドイツのサウルガウ市郊外在住で、ドイツ人の主人と24歳の一人息子と3人で暮らしています。兵庫県で生まれ、3歳からは東京で育ちました。母は関西、父は秋田出身ですので私の本籍は秋田にあります。舞踊やバレエ、オペラ、クラシック音楽などが好きです。水泳も好きです。日本の大学では陶芸を専攻し、1982年美術の勉強のため、ドイツのシュトゥットガルトにやって来ました。

その当時、シュタイナー関係のことに深く興味があったため、わざわざその中心地の一つであるシュトゥットガルトを選びました。精神世界に興味があり、ニューエイジ関係の本をたくさん読み、インド人のグルのところに尋ねて行ったこともありました。人に良く見られたいという思いから、変な風に思われていないかなどと、他人の目を気にしてクヨクヨ悩むこともよくありました。私は2002年に近所のカトリック教会で洗礼を受けましたが、そのきっかけとなった心の動きを皆様にお分かちさせていただきます。

シュトゥットガルトから小さな町サウルガウに引っ越してからは、とても落ち込みました。本当は力強く美術制作をするための場所を得るために、田舎に来たからでした。しかし、美術を制作する気力もアイデアもパワーも無くし、「私はいったいどうしてしまったのだろう、こんなはずではない！」と心は悶々とし、どうしていいのかわからない状態に陥りました。救いを求め、パワーストーン、アロマセラピーなども試してみました。そんな時、カトリック・ジーゼン修道院のシスターに出会い、一対一でお話しをする機会に恵まれました。

当時の私は、イエス・キリストは偉大な存在で、聖書も偉大な書物であること以上のことは、ほとんど何も知りませんでした。シスターの前では自分が何をしゃべっているのかわからないくらい毎回泣いて帰って来ました。そのシスターから「イエス様は私の光です」という文章を教えてくださいました。何とかしなくては、この私の心はおかしくなってしまうようで、藁にもすがる思いで、帰宅後さっそく薄暗い地下室の洗濯機の前で「イエス様は私の光です」と唱えはじめました。すると不思議なことに私の心の中にふーっと光りが灯るような感じがしました。気分が良くなってきたのです。自分で「あれっ？」と思いました。目には見えませんが、生きておられるイエスさまが触れて下さったのかもしれない。

「洗礼を受けたら、どうなるのかなー」と希望のような明るさを感じたのです。そして、洗礼を受けることにしましたが、十字架や復活の意味さえもよく分かっていませんでした。将来への希望も、その時点ではゼロでした。勿論、自分の罪については考えたこともありませんでした。

日本語でイエス・キリストのことをもっともっと知りたくて、シュトゥットガルトにある日本語集會に参加しました。そこで田辺先生と出会い、メアスブルク集會を紹介され、通うようになりました。2003年ウスター礼拝に誘われ、礼拝後の食事の時、ゲルスタ先生が偶然私の隣りに座られたので、「洗礼を受けたけれど、未だ十字架のこともよくわからない」とお話ししたら、イ

ザヤ書53章の聖句を教えてくださいました。この聖書箇所にはイエス様の十字架の苦しみについて書かれているので、5節と6節を読ませていただきます。「しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。」その文章中の「私たち」という部分を「千恵子」に置き換えてみることを教えてくださいました。この箇所はとてむたくしの心に触れました。いつもそのみ言葉を書いたメモをポケットに持ち歩き、涙を流しながら散歩道を歩きました。

時を同じくし、ゲルスタ先生の薦めにより、聖書を読む会のテキスト「基礎の学び」を使い、メアスブルク集會の原しのぶさんが導いて下さり、沢山の重要な聖書箇所に触れました。キリスト教の神髄を学ぶことができ、それは信仰の成長への助けとなりました。感謝です。ともかく日本語で聖書を学びたかったし、日本語でクリスチャンと神様のことをお話したかったので、夏の「ヨーロッパ・キリスト者の集い」にも参加しました。神様は「私の心の求め」に一步一步近づかれ、私を哀れまれ導いて下さいました。私は、少しずつ変えられていきました。祈れるようになり、祈りに応えてくださる神様を体験しています。今までは問題が起こると、ぐちぐち悩むだけでしたが、乗り越える方法も学びました。今は、まず祈ることが出来ます。そして神様に助けをもとめることが出来るようになりました。

こんなこともありました。ある大きな打撃を受け、人を赦すことが出来ず、暗闇の中で自分ではどうにもこうにも動きが取れず、苦しくて寂しくて大変な2年間を過ごしたことがありました。「神様!この苦しさは自分の力ではもうどうにもなりません。神様!あなただけが私を助けることがおできになります。どうぞ助けて下さい!」と、クリスチャンの方と一緒に祈っていただくことにより、やっとそのしがらみから解かれました。心が軽くなりました。心の「トゲ玉」が取れました。ハレルヤ感謝です!!しかし面白いことにその手放したはずの「過去の苦いトゲ玉」を自分で再び拾い上げ、つかんでいる自分にハッと気がつき「アッ、いけない!」と、パッと手から「トゲ玉」を捨てたことが2回ありました。

神様が祈りに応えて下さったときは本当に感謝です。神を知る前には到底知りえなかった喜びです。以前は小さなことで悩み、長い時間すっきりしないことが多かったのですが、イエスさまに祈ることで、その悩む時間が以前に比べるととても短くなりました。精神世界のことにはまっていた私が、イエス・キリストを信じるようになった事は奇跡です。それを助けて下さった聖霊様、そして多くの方々ありがとうございました。洗礼を受けて良かった!と感謝しています。

洗礼を受けてから12年が経ちました。今はイエスさまを中心に神様に喜んでいただけるように生きたいと思っています。神様がお与えになった私への能力を、神様のために使わせていただきたいのです。神様が喜ばれる主のご栄光を表す美術作品を作ることができれば本当にありがたいと思います。なぜなら、神様からはもうすでに「主にある希望」を、私のために与えられていることを知っているからです。

